

群 教 セ	F09 - 01
	平18.237集

自己表現力を高め、 気持ちを伝え合える児童の育成

— 「話す・聞く」力を付けるスキルトレーニングを通して —

特別研修員 塩川 麻紀子 (藤岡市立鬼石小学校)

《研究の概要》

本研究は、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりすることに課題のある児童に対して、「話す・聞く」力を付けるためのソーシャルスキル・トレーニングを行うことで、自己表現力を高め、お互いの気持ちを伝え合える児童の育成を目指したものである。国語の「話すこと・聞くこと」の学習と組み合わせ、身に付けた力を学習の中で生かし実践することで、より効果的な自己表現力の育成を図った。

I 「話す・聞く」力を付けて、お互いの気持ちを伝え合える子どもを育てる

1 児童の実態

本学級（5年生）は、男子が14名、女子が6名の構成ということもあり、活発な男子が中心となって活動することが多く見られる。一部の男子や多くの女子は、発言や行動が控えめで、みんなの前で自分の気持ちを表現することが少ない。また、活発な児童の中には、相手の反応を気にせず一方的に自分の思いや考えを伝えて満足したり、友達の意見をきちんと聞かないで安易に否定してしまったりする様子も見られる。

以上のような児童の実態は、自己表現が上手にできないこと、相手の気持ちをきちんと理解しないで行動してしまうこと、気持ちや考えを伝える言葉や態度が適切でないことなどが原因ではないかと考えられる。

そこで、ソーシャルスキル・トレーニング（以下SST）を取り入れ、「話す・聞く」力を身に付けることによって自己表現力を高め、子どもたちの「伝え合う」力を育てていく必要があると考えた。

2 自己表現力とは

「自己表現力」とは、自分の思いや感じたこと、考えを言葉ではっきりと「自己主張」する力ととらえる。また、同時に相手の気持ちや考えを理解し、受け止めることのできる「他者配慮」の姿勢が必要である。子どもたちは、自分の主張をあた

たかく受け入れられることにより、自己表現することの楽しさを味わい、気持ちを伝え合うことができるようになると思う。

3 SSTで身に付けさせたい「話す・聞く」力

「自己主張」と「他者配慮」の力を育てていくためには、「話す・聞く」力が基礎となる。そこで、「話す・聞く」力を付けるために有効なSSTを設定し実施する。

◇身に付けさせたいスキル◇

- 1 「聞くスキル」
 - ・話し手の方に体を向けて聞く
 - ・話し手の目を見て聞く
 - ・うなずきながら聞く
- 2 「話すスキル」
 - ・よい姿勢で話す ・大きな声で話す
 - ・分かりやすく話す
- 3 「話し合う（伝え合う）スキル」
 - ・質問する ・理由を言う
 - ・大事な意見を優先する
 - ・主張的な話し方をする

4 身に付けた力を国語の学習で生かす

本校では、「豊かな言葉で伝え合う子どもの育成」を目指し、国語科における「話すこと・聞くこと」に視点を当てて校内研修に取り組んでいる。そこで、国語の学習の中に、SSTで身に付けた力を生かせる活動を意図的・計画的に設定し、実践することを通して、児童が自己表現することの

楽しさを実感できるようにし、身に付けた「話す・聞く」力を定着させたいと考えた。SSTと国語の学習を組み合わせることで、より効果的な自己表現力の育成を図っていききたい。

II どのように研究を進めていくか

1 自己表現の場「ほっとルーム」

本校では、「ほっとルーム」を児童が生き生きと自己表現できる場としてとらえ、学級を主な活動場所として自己表現力の育成を図る。

2 研究の日程

月	研究内容
4~5月	・教員の観察による児童の実態把握
6月	・1回目のアンケート調査「学級の雰囲気把握する質問紙」の実施と分析
6月 7月 8月 9月 10月 11月	1 「聞くスキル」を身に付ける (1) あなたもわたしも聞き方名人【SST】 (2) インタビュー名人になろう【国語実践】
	↓
	2 「話すスキル」を身に付ける (1) 発表をするときは？【SST】 (2) 本は友達【国語実践】
	↓
	3 「話し合う(伝え合う)スキル」を身に付ける (1) 質問しよう【SST】 (2) 伝え合って考えよう(ポスターセッション)【国語実践】
	↓
	(3) ブレーンストーミング【SST】 (4) 大事な意見は？【SST】 (5) わらぐつの中の神様①【国語実践】
↓	
(6) 自分の気持ち(考え)を伝えよう【SST】 (7) わらぐつの中の神様②【国語実践】	
11月	・2回目のアンケート調査「学級の雰囲気把握する質問紙」の実施と分析 ・「活動を振り返るアンケート」の実施と分析
12月	研究のまとめ

III スキルトレーニングと国語実践

1 「聞くスキル」を身に付ける

(1) 「あなたもわたしも聞き方名人」【SST】

<ねらい>

いろいろな話の聞き方を体験して、話す人が気持ちよく話せる聞き方を身に付ける。

<活動の流れ>

- ① いろいろな話の聞き方の例を見て、どんな聞き方をしているか確認する。
- ② 二人組を作り、話し手と聞き手に分かれ、聞き手はいろいろな聞き方で話し手の話を聞く。
 - ・後ろを向いて聞く
 - ・寝ころんで聞く
 - ・近くの人とおしゃべりしながら聞く
 - ・手悪さをしながら聞く など
- ③ 同じ話し手が、もう一度同じ話をして、聞き手は違う聞き方で話を聞く。
 - ・話し手の方に体を向けて聞く
 - ・話し手の目を見て聞く
 - ・うなずきながら聞く
 - ・あいづちをうちながら聞く など
- ④ それぞれの聞き方により、話し手がどう感じたか話し合う。
- ⑤ 話を聞くための3つのルールを確認する。
[体を向ける・話す人を見る・うなずく]
- ⑥ 今日の活動を振り返る。

<児童の感想>

・いつも友達と話をしているけど、今日習ったことを実行したい。自分の態度を直そうと思った。

・みんなの話をちゃんと聞いてあげれば、もっと友達との仲も深まるかなと思った。これからはもっと真剣に話を聞こうと思った。

(2) 「インタビュー名人になろう」【国語実践】

<ねらい>

聞く態度や言葉遣いに気を付けながら、インタビューを行う。

<活動の流れ>

- ① インタビューで大切なことを確かめる。
 - ② インタビューゲーム「相手を変えてしゃべりまSHOW」を行う。
- ※ 聞くスキル[体を向ける・話す人を見る・うなずく]を確認する。
- ③ ゲームが終わったら、お互いに難しかったところや相手のよかったところを話し合う。

<児童の感想>

- ・人に体を向けて話をして工夫した。
- ・〇〇さんのインタビューは上手で、あいづちをうってくれたので話しやすかった。

《考察》

SST「あなたもわたしも聞き方名人」では、実際にいろいろな聞き方で、話し手の立場を体験することにより、児童はどんな聞き方が話し手にとって話しやすいかを実感することができた。これまでの自分の話の聞き方を振り返り、自分の態度を改善していきたいと考えた児童が多く見られたことはよい成果だと感じた。

また、国語実践「インタビュー名人になろう」では、相手の顔を見ながら質問したり、時々うなずきながら話を聞いたりするなど、聞くスキルを生かしながらインタビューを行うことができた。

2 「話すスキル」を身に付ける

(1) 「発表をするときは？」【SST】

<ねらい>

発表するときの適切な声の大きさ、姿勢、分かりやすい発表の仕方を身に付ける。

<活動の流れ>

- ① 不適切な発表（小声で、下を向き、ふらふら歩きながら言うなど）と、適切な発表（大きな声で、まっすぐ前を向いて言うなど）の例を見る。
- ② 提示された発表のどちらが上手か、どんなところがよかったかを話し合い、発表するときの3つのポイントを確認する。
[よい姿勢で・大きな声で・分かりやすく]
- ③ 3つのポイントを意識しながら一人ずつ簡単なスピーチを行う。
- ④ 今日の活動を振り返る。

<児童の感想>

- ・すごくいいことを教わって、話すのがうまくなった気がした。聞く人の方を見てしゃべれるようになった。
- ・今度スピーチをするときは、特に聞く人の目を見て、聞き取りやすい声で話すようにしようと思った。
- ・今日いろいろやって、話すのが少し好きになりました。よかったです。

(2) 「本は友達」【国語実践】

<ねらい>

読書会で、自分の読んだ本の魅力や自分の感じ方・考え方を、メモを利用して紹介する。

<活動の流れ>

① 読書会を開く。

- ・グループで、感想などを整理したカードやメモをもとに読んだ本を紹介する。

※ 話すスキル [よい姿勢で・大きな声で・分かりやすく]を確認する。

② グループで感想を話し合う。

《考察》

話すスキルは、これまでも指導してきているので、児童はあまり興味を示さないのではないかという思いがあったが、実際にスキルトレーニングを行うと、大変意欲的に取り組んでいた。教員がモデルとなり不適切な話し方と適切な話し方を提示することで、児童は具体的な話し方を学び、それを自分に取り入れようとする様子が見られた。

読書会でも、ふだんのスピーチでは表情が暗く、下を向いてスピーチ用紙を読んでいた児童が、時々顔を上げて発表するなど、聞き手を意識してスピーチする様子が見られ、スキルトレーニングの効果が現れていた。

3 「話し合う(伝え合う)スキル」を身に付ける

(1) 「質問しよう」【SST】

<ねらい>

「背中の言葉当てゲーム」を通して、[質問する]ことの重要性に気付く。

<活動の流れ>

- ① 今日のテーマについて確認する。
- ② 「背中の言葉当てゲーム」をする。
 - ・生き物の名前が書いてあるカードを背中に貼って、歩きながら出会った友達とじゃんけんをする。勝った人は、背中のカードを見せて、「この生き物は速く走れますか？」などの質問をしながら、自分の背中に貼られている生き物を当てる。
- ③ 今日の活動を振り返る。

(2) 「伝え合って考えよう(ポスターセッションをしよう)」【国語実践】

<ねらい>

- 自分で調べた内容や感想が、クラスの友達に分かりやすく伝わるように、工夫して話す。
- 発表者の考えと自分の考えを照らし合わせ、話題のとらえ方の違いや共通点を明確にしながらか聞く。

<活動の流れ>

- ① 発表者がポスターを掲示しながら説明する。

② 発表後、聞き手が自分の課題や考えと照らし合わせ、質問や感想を発表する。

※ SST「質問しよう」を思い出させ、[質問する]ことの意義や重要性を事前に確認する。

③ 今日の活動を振り返る。

<児童の感想>

- ・いつも以上に大きい声でいねいに話せたのでよかった。
- ・姿勢良く発表できた。
- ・自分の発表はちょっとだめだったと思います。〇〇君のがうまいと思いました。
- ・〇〇君がすごくいい質問をしてくれた。
- ・ぼくが質問したことをちゃんとこたえてくれてうれしかった。

《考察》

質問することは、正確な情報を得たり、あいまいな点や足りない部分をはっきりさせたりできる。また、質問するためには相手の話をよく聞き、理解しようとする気持ちが必要である。

そこで、SST「質問しよう」では、ゲームを取り入れ、楽しく活動することによって、質問することへの抵抗感をなくさせたいと考えた。この活動により、児童は、どのように質問したら自分の知りたい情報を得ることができるか、また、どのような態度で質問したら相手が気持ちよく答えてくれるかなどを意識できるようになった。

国語実践では、友達の発表を一生懸命聞きながら質問を考えている児童が多く、聞く態度に真剣さが見られるようになってきた。また、児童の感想から、発表するときも話すスキルを意識していたことが分かり、スキルが少しずつ定着してきたと考えられる。

(3)「ブレインストーミング」【SST】

<ねらい>

自分の思いつきや考えを、否定されることなく自由に発言する活動を通して、抵抗感なく発言できる力を身に付ける。

<活動の流れ>

- ① 「ブレインストーミング」について知る。
 - ・ テーマについて決められた時間内にできるだけたくさん考えを出す。
- ② 「ブレインストーミング」の約束を確認する。
 - ・ 相手の考えを否定するようなことは絶対に言わない。
- ③ 4～5人のグループごと、グループ対抗、学級全体など、いろいろな形態でブレインスト

ミングを行う。

④ 今日の活動を振り返る。

<児童の感想>

- ・みんないっぱい意見を出していてとてもおもしろかった。ふだんしずかな人でも楽しくやっていた。
- ・〇〇君は、とてもユニークな考えをしていた。またやってみたいです。
- ・みんなで出し合ったときに、女の子がいっぱいがんばっていた。
- ・発表しても否定されないからよかった。

(4)「大事な意見は？」【SST】

<ねらい>

話し合いゲーム「無人島SOS」を行うことを通して、[理由を言う][大事な意見を優先する]という話し合いのスキルを身に付ける。

<活動の流れ>

- ① 今日のテーマについて確認する。
- ② うまくいかない話し合い場面例を見る。
- ③ 話し合いのルールとして、[理由を言う][大事な意見を優先する]ことを確認する。
- ④ ゲーム「無人島SOS」を行い、実際に練習する。
 - ・ 遭難し、無人島にたどり着いた。沈みそうな船から積んであるアイテムを5つ運び出すことができる。無人島で生き残り助かるためにはどんなアイテムが必要かグループで話し合う。
- ⑤ 今日の活動を振り返る。

<児童の感想>

- ・自分でもうそみたいに自分の意見が言えた。
- ・私のグループも他のグループも女の子がいろいろ発表できていてよかったなあと思いました。意見もみんなそれぞれでいいなあと思いました。
- ・ぼくは発表が苦手だけど進んで発表できた。たくさん意見を言えて楽しかった。

(5)「わらぐつの中の神様①」【国語実践】

<ねらい>

おみつさんの人柄について、自分で読み取ったことをもとにグループで話し合う。

<活動の流れ>

- ① グループになり、一人ずつおみつさんの人柄とそう思った理由を発表する。
 - ② 同じ意見や似ている意見をまとめたり、違う意見を比較したりしながら、それぞれの考えをより詳しく知る。
- ※ SST「無人島SOS」で行った、[理由を言う]ことを意識させる。

- ③ グループの意見を話し合っまとめる。
- ※ S S T「無人島SOS」で行った、[大事な意見を優先する]ことを意識させる。
- ④ 話し合った意見をグループごとに発表する。
- ⑤ グループの意見をもとに全体で話し合い、おみつさんの人柄をまとめる。

<児童の感想>

・自分の意見がみんなとちがうので心配だったけど、みんなはうなずきながら聞いてくれた。
 ・前より友達の考えを聞いた。前よりもっと発表がいっぱいできた。
 ・みんなで話し合っておみつさんの人柄を考えたからいい発表ができたと思う。またみんなで話し合いたい。

《考察》

S S T「ブレインストーミング」では、どんな意見を出してもみんなから否定されないというルールに安心し、授業中はほとんど自分から発言しない児童も生き生きと自分の意見を発表していた。また、ふだんはおとなしい女の子の活躍も見られて、学級の雰囲気や和やかになり、発表することに抵抗のある児童に対して大変有効な活動であった。

国語実践では、その雰囲気が継続され、活発な話し合いが行われた。また、グループの意見を話し合っ決めてるとき、以前は自分の意見を強く主張する子や勉強のできる子の意見に流されてしまう場面が見られたが、今回は1つ1つの意見をみんな考え、グループの意見としてまとめようとする姿勢が見られた。S S T「無人島SOS」で行ったスキル[大事な意見を優先する]ことが生かされていたと考えられる。

(6) 「自分の気持ち(考え)を伝えよう」【SST】

<ねらい>

自分の気持ちを伝えることの大切さや主張的な話し方のよさに気付かせ、[主張的な話し方]を身に付ける。

<活動の流れ>

- ① 今日のテーマについて確認する。
- ② 「攻撃的」「非主張的」「主張的」の3つの話し方の例を聞き、それぞれの話し方の感想を発表する。

《3つの話し方》

友達役：「ねえ、この本、図書室に返ってきてよ。」

あなた役：「えっ、でも・・・」

友達役：「いいじゃない。返ってきてよ。」

あなた役：a 「・・・でも・・・」(非主張的)

- b 「いいかげんにしてよ。いつも命令ばかりして！」(攻撃的)
- c 「ぼくは(私は)できないよ。自分で返す決まりだからね。でも、1人で行きにくいのなら一緒に行っあげよ。」(主張的)

③ 二人組になり、3つの話し方のロールプレイを行う。

④ 3つの話し方を体験した感想を発表し、お互いに気持ちのよい言い方を考える。

⑤ 今日の活動を振り返る。

(7) 「わらぐつの中の神様②」【国語実践】

<ねらい>

「わらぐつの中の神様」を読んで、一番心に残ったことを話し合う。

<活動の流れ>

- ① グループで、「わらぐつの中の神様」を読んで一番心に残ったことを発表し合う。
- ② 発表に対して、質問したり、感想を発表し合ったりする。

※ 話し合いのときには、S S T「自分の気持ち(考え)を伝えよう」で行った、[主張的な話し方]を意識させる。

<児童の感想>

・今日は前以上によくできてよかった。みんながぼくの話をよく聞いてくれた。
 ・自分の考えが前よりずっと言えてよかった。
 ・みんな一人一人ちがう意見をもっていて、いい話し合いができたと思う。

《考察》

S S T「自分の気持ちを伝えよう」では、ロールプレイを行った際に、主張的な言い方を考えることが難しそうだったが、どのような言い方をすればお互いに気持ちがよいかを真剣に考えることができた。

国語実践の話し合いでは、スキルトレーニングを意識しながら、自分の考えをはっきりと友達に伝えることができた。自分の考えと友達の考えを比べることで、話し合うことのおもしろさを感じている様子も見られた。また、発表に対して質問したり、感想を言ったりするなど、聞き手が発表をあたたく受け入れることができるようになってきたため、話し手の児童も自分の発言に自信をもって、生き生きと発表できるようになった。これまで積み重ねてきたスキルトレーニングの効果を感ずることができた。

IV 子どもたちがどのように変容したか

1 お互いを認め合える学級

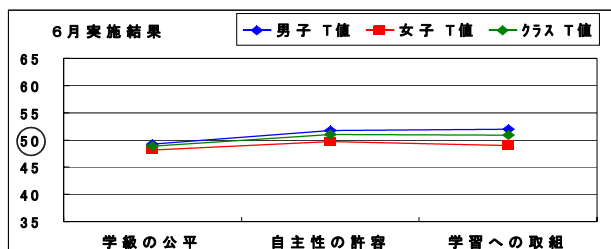


図1 「学級の雰囲気を把握する質問紙」6月の結果

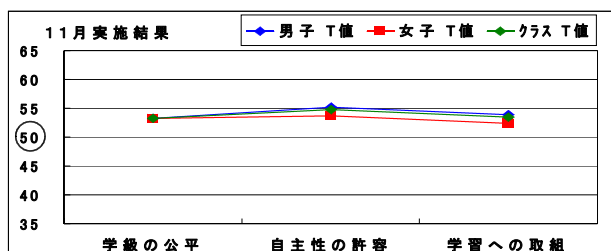


図2 「学級の雰囲気を把握する質問紙」11月の結果

注: 表の見方・50以上が良好

《考察》

6月には、「学級の公平」の項目の評価が低く、みんなが平等に認められていないと感じている児童が多かった。さらに女子の中では「学習への取組」に対する評価が低かったため、授業中、だれもが意欲的に取り組み、その頑張りをお互いに認め合える学級づくりの必要性を感じた。

11月の結果からは、どちらも改善され、学級の雰囲気に変化が見られたことが分かる。

2 話すことが好きになった子どもたち

11月に「活動を振り返るアンケート」を行い、「話し方（発表・スピーチ・話し合い）」や「聞く態度」が1学期と比べてどのように変化したかを聞いたところ、8割の児童が前に比べて話すことが好き（得意）になったと答えており、その成果がうかがえる。「発表するのが楽しくなった。」「緊張がなくなった。」などの感想も多く見られた。

また、聞く態度も6割の児童が改善されたと自分自身で感じていることが分かった。

V 研究を振り返って

1 まとめ

「話す・聞く」力を付けるためのSSTを行うことにより、児童は話すことに対する抵抗感が減

ってきた。特に、授業中の発言が少なく、あまりみんなの前で自分の気持ちを出さなかった女子が、スキルトレーニングの中で楽しそうに活動していたり、進んで話し合いに参加したりする姿が見られるようになったことは大きな成果だった。トレーニングという意識が、子どもたちに安心感を与え、失敗を恐れずに意欲的に活動する態度へとつながったのではないかと考えられる。

また、以前は友達の発表の最中に発言して発表を遮ったり、発言に対して否定的な意見を言ったりしていた児童も、最後まで話を聞き、相手を理解しようとする姿勢が育ってきている。スキルトレーニングで学習した聞く態度のポイントを、その都度みんなで確認することによって、徐々にしっかり聞こうとする意識が高まってきた。

さらに国語の実践場面では、事前のSSTで身に付けたスキルを生かせる活動を意図的に設定したことで、児童は学習の中で自然にスキルを実践し、自己表現することの楽しさや喜びを実感することができた。

2 今後の課題

児童が進んで自己表現するためには、それを受け入れてくれる学級の雰囲気が大きく影響する。間違いや失敗をあたたかく受け止め、頑張りを認め合える人間関係をつくることは、気持ちを伝え合える児童の育成のために、今後も重要である。

また、SST実施後は、話し方や聞き方を意識できるが、時間がたつとまた元に戻ってしまったり、グループなど少人数の中では自己表現できても、クラス全体になるとためらってしまったりする児童も見られるため、今後も実践を繰り返しながら定着を図っていきたい。

Web検索キーワード

【教育相談 ほっとルーム 自己表現力 国語 SST 「話す・聞く」力】

<主な参考文献>

- ・佐藤 正二 相川 充 編 『実践！ソーシャルスキル教育』小学校編 図書文化(2005)
- ・上野和彦/岡田智 編 『実践 ソーシャルスキルマニュアル』(2006)